

令和５年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立日高中学校 教諭 磯野 尚人

- 1 派遣期日 令和５年 ６月 １７日（土）
- 2 派遣先 学校名 東京学芸大学世田谷付属中学校
所在地 東京都世田谷区深沢４丁目３－１
<http://www2.u-gakugei.ac.jp/>

3 研修内容

情報活用能力を育むモデル単元の開発－資質・能力をベースとした教科横断による実践を通して－という上記の研究テーマの第３年次の授業公開に参加した。全体会では行っている研究内容の説明が行われた。研究課題である情報活用能力について、日々の授業で培った内容を単元全体を通して見直しをもって行うことが大切であるという内容であった。また、各教科での学習内容を軸として、教科の特性に応じて相互に内容が絡み合うことで情報活用能力を育もうとする内容であった。新学習指導要領では、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」が学習の基盤となる資質・能力として例示されており、これらについては、「各教科の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」ということから、教科の学びの上位概念として位置づけられるものである。本研究はその中の情報活用能力に焦点を当てたものである。

（１）情報活用能力のモデル単元に関わる事例について

辞書的な情報活用能力とは「学習指導のために、一定の目標や主題を中心として組織された教材や経験の単位」とされ、「学習内容を一つの有機的なまとまり（単元）として構成される。」としている。そして、情報活用能力自体は、一つの汎用的な資質・能力であるため、この研究は能力ベースの単元開発であるといえる。このようなことから、今回の研究での「単元」は、その連なりを１つの教科のみで捉えるのではなく、教科同士が結びつき共有される能力が抽出され、その活用や深化に関連したまとまりをさすものだといえる。

（２）情報活用能力を育む視点について（各教科での取り組みについて、各教科の視点から）

モデル単元の開発をするにあたって、教科の中で学びが行われているのかどうかを明らかにして共有することで、教科の特性に応じてその捉え方や細部に差があることが明らかになった。そのため、それぞれが捉える情報活用能力の視点で着目したい資質能力をもとにプロジェクトチームを編成していく。（収集、整理、表現のいずれかの場面において）その結果出てきたものは、①教科特性が反映された「見方・考え方」により醸成されるもの、②複数の教科に共通することがらにより深長されるもの、③同一の対象を異なる見方を行うことで見え方が変容するもの、④既有知識との結びつきから見え方が変容・発展するものであった。

また、総合学習として、「教科総合」と「テーマ研究」というものが行われている。「教科総合」とは、週に１時間ずつ総合的な内容を教科の授業を通して行う。例えば、１年生は英語、２年生は数学、３年生は国語といった内容で行っている。このため、時間割上で見れば各学年でそれぞれの教科が１時間増えていることになる。「テーマ研究」とは、２年生と３年生を対象として行われている研究活動である。生徒たちは年度初めに行われる１４～１８の大テーマの中から第４希望まで選びその中から、自己の興味・関心に応じて割り振られる。大テーマは教員が設定している。そのため毎年引き継がれるテーマもあれば、教師が設定するものもある。コロナ禍のため、オリエンテーションは体育館で対面で行い、テーマ希望アンケートは、Forms上で行う。その後、各自の活動のテーマ研究は、個人活動で行うなど工夫をこらして行っていた。この

テーマ研究を行うにあたって今後は、高等学校で「総合的な探究の時間」が始まってくるため、「何を学ぶか」から「どのように学び、それをどう活かしていくか」に重きが置かれてくるようになるとのことであった。

(3) 授業内容は、中学3年生の理科の学習であり、化学分野の知識の体系化を図るために Yes/Noクイズを行うというものであった。情報活用能力との関わりとしては、知識を体系化するためにはまず、分類する必要がある。そこから概念知識へと行って行くため、授業で行われていた最短でキーワードを探すためには、どうしたらよいかを考えることで、知識を分類して考えることを意識しているかどうかが大変であると思った。授業内容に関しては、生徒が落ち着いて授業に取り組めており、難しい課題ではあったが、誰ひとり課題から外れることなく集中して行うことが出来ていて普段から学習に対する意欲が高い集団であると感じた。生徒の対話を繰り返すことで自分自身の頭の中で知識を整理することができ体系化にも繋がるのではないかと思った。質問者がどのような質問をしたら少ない質問でキーワードにたどり着けるのかを考える姿や、既習事項の中から情報を選択する姿も見られた。

(4) 授業終了後に研究協議を行った。授業者に参加者が自己紹介も兼ねて質問をする時間があつたので自分は情報活用能力は評価しづらいことや評価方法をわかりやすくするためにはどうしたらよいのか疑問にと感じているため「情報活用能力の評価について」質問をした。その後の大学教授の指導講話や文部科学省の視察員の方々から、情報活用能力は教科で評価するものではなく教育活動全般で評価する能力であるとの話であった。さらに文部科学省の視察員から主体的に関わる態度・人間性の評価の仕方は学習に粘り強く取り組む姿勢や、課題に対してほかの人の意見を聞き調整する力などが必要であることが分かった。

4 感想

都内の最先端の学校であることを期待して訪問したが、学校周りは閑静な住宅街であったが、学校の施設は年期が入っていた。生徒は元気よく挨拶をすることができ、明るい雰囲気であった。参加者は都内の中学校からや各国立大学付属中学校からの来校者が多かった。学校の運営の仕方も特徴があり、水曜日は4時間授業、木曜日は8時間授業などメリハリのある教育課程で魅力的であった。コロナ禍もありここ数年間は授業の参観を行うことが少なかったもので、自分の中でとても新鮮な気持ちで参加することが出来ました。授業の引き出しを多くすることも出来たので有意義な研修であった。最後にこのような機会を与えてくださった、日立市教育研究会の方々や校長先生に感謝するとともに今後の自分の指導に活かして行けるよう今後も努めたい。